

ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認
 HSK通巻番号580号
 発行 令和2年7月10日
 毎月10日発行 一部100円
 編集 〒060-0006
 札幌市中央区北6条西12丁目8番3
 公益財団法人ふきのとう文庫
 電話(011)222-4839
 FAX(011)222-4800
 発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
 細川久美子

「負けるな！ ふきのとう文庫」

二〇二〇年の半年が過ぎ、私たちの脳裏にあるのは新型コロナウイルス（COVID-19）の推移だ。しかし、誰が今年の初めに現状を予想できただろうか。感染者は一千万人を超え、日々の生活で人間は考えたはずだ。グローバル化の弊害や生き方の価値であり、人のつながりを。

そして、感染を避ける「新しい生活様式」からリモートワークや遠隔授業を余儀なくされている。今までこだわっていたことも変えられるのだという成果もあるだろう。

危惧するのは、子どもたちが絵本は携帯やネットで読めば便利だと学習することである。もちろん、障がいのある子どもたちにとつて耳から絵本を楽しめたり大きな絵を見ることができたりと大変便利な環境であることは間違いない。しかし、絵本の存在がそれだけではないことは私たちには周知のことである。これからも他人の痛みのわかる子どもたちが育つて欲しいと願うばかりだ。

モリス・センダックの「怪獣たちのいるところ」や長谷川摂子・降矢奈々「おつきちゃんとかっぱ」は物語の世界と現実の世界を行き来する楽しい作品だが、トールキンの「指輪物語」につながる（行きて帰りし物語）の系譜であり、自分の安全圏を離れて、いままでも知らなかった「未知の世界」に行き、これまでとは違う経験、知識を得て、元の世界に戻って来るお話だ。冒険すると元の世界がいままでとは違って見えるようになるだろう。これは旅であり冒険であり通過儀礼でもある。そのようにして人は成長する。此岸と彼岸を視野に入れることは生まれて死ぬ我々には自明の理でもある。その楽しさと切なさをそれとなく子ども

ふきのとう文庫 評議員 武井昭也

もたちに感じさせ、生きてあることの幸いを伝えてくれる作品でもあろう。親や保育者や近い人が読み聞かせてくれる体温や表情も大事な要素だ。手で触れる紙の感覚も絵本のサイズも大事で、これらは画面からは伝わらないだろう。

各地の公立図書館は頑張っている。札幌には絵本図書館もできた。剣淵絵本の館、そして、いわき市には絵本美術館「まどのそとのそのまたむこう」があり、大阪には子どもの本の森中之島がこの七月に開館した。絵本の読み聞かせ活動も盛んだ。これらの活動が子どもたちの支えになっている。

さて本題である。「ふきのとう文庫」は本年五十周年を迎えた。子ども図書館として絵本・児童書を中心に拡大写本・布の本を広めるといって、他に類を見ないかけがえのない存在だが、この社会状況で不安を抱えながらの活動だと耳にしている。そしてその運営費は安定的ではない。ボランティアに支えられ、寄付に支えられながらの状況である。私たちにできることはその存在と活動を広め、支えることだ。負けるな！ふきのとう文庫。



プロフィール

一九五六年弘前市生まれ。札幌国際大学教授。

法政大学大学院卒。近現代日本文学、保育者養成課程「言葉」、図書館司書課程担当。法政大学国文学会委員、絵本図書館ネットワーク委員、日本図書館協会会員、趣味は料理とアウトドア、日本酒。

令和元年度事業・決算報告

決算報告

収支決算報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで (単位 円)

科 目	金 額			
	予 算	2年3月末	前年同月	前前年同月
I. 収入の部				
賛助会費	2,600	2,272	2,387	2,448
寄付金等	3,200	2,801	5,400	5,743
助成金	1,500	1,500	1,500	1,650
事業収入	2,390	2,059	2,270	2,041
雑収入	10	1	1	19
合 計	9,700	9,033	11,558	11,901
II. 支出の部				
管理費	6,200	6,497	6,297	6,289
事業費	3,500	2,511	3,723	2,881
合 計	9,700	9,008	10,020	9,170
収支差益	0	25	1,538	2,731

財産目録

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで (単位 円)

科 目	金 額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金手元有高	94,796	
普通預金	3,230,457	
振替貯金	255,656	
期末原材料棚卸高	864,340	
売掛金	166,480	
流動資産合計		4,611,729
2. 固定資産		
①基本財産	140,889,101	
②その他固定資産	28,996,719	
固定資産合計		169,882,820
資産合計		174,494,549
II. 負債の部		
未払い金	23,275	0
仮受金	54,000	
負債の部合計		77,275
III. 正味財産	174,417,274	174,417,274
負債及び正味財産合計		174,494,549

今期は令和二年に入り突然の新型コロナウイルス騒動で、二月・三月の活動が思うように行かず年間活動が縮小されてしまいました。突然で申し訳ありませんでした所、多くの賛助会の皆様が快くお引き受け下さいまして最終的には、予算の収入計画には届きませんでしたが多額の収入となりました。一方コロナの影響で活動が縮小され支出も計画より少なくて済み、収支の数字をトントンで済ませることが出来ました。

誠にありがとうございました。
 心から御礼申し上げます。

また財産目録で期末原材料棚卸高を計上しましたが、これは布の本の原材料である主材料の色変更や値上がり等の事情により、在庫を大量に抱えざるを得なくなったための物として、今期の仕入れを見込んだものです。

事業報告

一、子ども図書館の運営

- ① 開館日数 一八七日
- ② 入館者数 八、九〇五人
- ③ 登録者数 三、八〇五人
(新規登録者 三六七名)
- ④ 貸出し件数 図書 二六、九九九冊
(紙芝居 九二二冊を含む)

- ⑤ 図書の拡充 拡大写本 二四一冊
新規購入 一七九冊
紙芝居 一四冊
寄贈図書 二四八冊

二、病院文庫の拡充

- ① 北大病院文庫 ○冊
- ② KKR (産科) 一五冊 (寄贈)
- ③ おのだ眼科 ○冊 (寄贈)
- ④ 天使病院 一五冊 (寄贈)
- ⑤ 市立病院 二四三冊 紙芝居 四五冊
絵本 一八〇冊
大型絵本 一八冊 (貸出し)

三、布の本の製作・貸出

- ① 製作 布の本 一七四冊
材料セット 二四九セット
- ② 貸出し 布の本 一八種類 一、〇一七点
遊具・タペストリー 七五二冊
テキスト 三五種類 三〇冊
材料セット 二七八セット
布の本 二八五冊
遊具 四八五点
- ③ 販売 遊具 二七八セット
- ④ 寄贈 北大病院文庫・視覚支援学校 二八五冊
- ⑤ 講習会開催 6/9 北翔大学 四八五点
- ⑥ 展示会 (多目的ホール開催) 10/23 旭川中央図書館
- ⑦ 外部イベント参加 令和元年11月10日〜13日 木育ひろば in ふきのとう文庫

10月20日 視覚支援学校・学校祭
四、拡大写本の製作

①製本 児童図書・絵本・マンガ

三五種 三一五冊

②拡大写本

配本先 中央小学校 ひとみの教室 九二冊

札幌視覚支援学校 七六冊

旭川盲学校 二五冊

計 一九三冊

貸出し

文字・活字文化推進機構バリアフリー図書展

示 7/14 東京 一一冊

文字・活字文化推進機構バリアフリー図書展

示 9/16 広島 八冊

文字・活字文化推進機構バリアフリー図書展

示 2/29 金沢 一〇冊

視覚障がい乳幼児研究会 北海道大会 9/1 二五冊

岩見沢家庭学級 9/19 一一冊

大阪 弱視児童 山本君 一六冊

旭川おもちゃフェスティバル 10/29 八冊

大磯マサエさん 一一冊

STVラジオ イベント 12/1 一一冊

計 一一二冊

③新作拡大本

合計 三五タイトル 三一五冊 詳細 別紙

五、機関誌の発行

七月、十一月、三月に三回、各二五〇〇部ずつ発行

六、子ども催事

お話の会 年十一回開催 一〇四人参加

うたう会 年十二回開催 四一人参加

手づくりあそび 年四回開催 九〇人参加



人形劇 年一回開催 三六人参加

北大医学生 アンサンブル・フラテ 年一回開催 四一人参加

世界の楽器展 年一回開催 二三〇人参加

小学生のための語りの会 年四回開催 四二人参加

土田 英順 年一回開催 一四〇人参加

催事合計 三十五回 一、〇九七人参加

七、研修会

7月14日

語り合おう！ 読者バリアフリーのこれから

主催 公益財団法人 文字活字文化推進機構

八、ふきのとう文庫利用者数

新型コロナウイルス騒動のため三月はまるまる休館となりました。

従いまして四月～二月までの日数で達成率を計算しました。

自主目標 一四、一〇〇人に対して一一、六〇〇人

達成率八二・三%

昨年同月比では、一三、三八四人で本年度は一、

七八四人の減少となりました。

◆ふきのとう文庫五十周年

記念行事の延期のおしらせ◆

前号でお知らせしていました「ふきのとう文庫五十周年記念」の行事は、新型コロナウイルス蔓延の緊急事態宣言などで延期を余儀なくされました。現在、日時、行事の内容などを再検討中です。決まり次第、お知らせします。

また、令和二年下半期の「子どものためのもよおしもの」は次の通りとなっています。

予定表

2020年度下半期

- 10月18日(日)13時30分～「おはなし会」
- 25日(日)13時30分～「うたう会」
- 11月1日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
- 8日(日)～11日(水)「木育ひろば」
- 15日(日)13時30分～「おはなし会」
- 23日(月)13時30分～「うたう会」
- 12月6日(日)13時30分～「おはなし会」
- 13日(日)13時30分～「ひよっこ人形劇団」
- 20日(日)11時～11時30分「クリスマス会」
- 1月11日(月)13時30分～「うたう会」
- 17日(日)13時30分～「おはなし会」
- 31日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
- 2月14日(日)13時30分～「うたう会」
- 21日(日)13時30分～「おはなし会」
- 3月14日(日)13時30分～「うたう会」
- 21日(日)13時30分～「おはなし会」
- 28日(日)13時30分～「手づくりあそび」



ふきのとう子ども図書館 TEL 222-4839



「新型コロナウイルス」蔓延と「ふきのとう文庫」活動

当文庫の歴史上はじめて「休館」という事態に至りましたが、それへの経過と再開の動向を時系列的に追ってみます。

一、「休館」に至るまで

「新型コロナウイルス」の道内初感染者（武漢からの旅行者）が確認され（二月二十八日）、これが国の「指定感染症」になったのが一月末でしたので、一月二十八日に開催された当文庫の「運営会議」（月に一度）では話題になった程度でした。

二月に入り急速に感染の広がりがあり、二月十四日・十五日には日本人初の死者、北海道民初の感染者を出しましたし、二月十九日には「市中感染」拡大の恐れが新聞に報道されました。二月十九日に開かれた運営会議で「新型コロナウイルス蔓延の場合の対応」が協議され、札幌市内の学校、図書館等の対応を見て方針を決めることとなりました。

更に事態は悪化し、二月二十七日には、道内初の死者の報道、そして同日道内全公立小中学校が休校（大半が一週間）、二月二十九日になると、北海道知事は道独自の「緊急事態宣言」を出すに至りました。

当文庫では、二月二十八日（金）に運営会議メンバーに電話で相談（一部は事後報告）、三月一日から十一日までの図書部門の活動停止を決め、内外に通知しました。

二、「休館」の継続と再開

早目の北海道知事の緊急事態宣言に伴う措置の効果が表れ、内部では布の本のコーナーのタペストリー春バージョンに貼り替えなどやっておりますが、道内からも数人死者がでるなど感染が広がり、国レベルでは「新型コロナウイルス対策特別措置法改正案」が閣議決定される等を受けて、

三月九日に運営会議メンバー有志による「小会議」が開催されました。そこで「休館」を四月四日まで延長し、四月五日から再開を決めて内外に二回目の通知をしました。

その後北海道の「緊急事態」終了や、全国での一斉休校の解除などあり、予定通り四月五日から「閲覧」のみ（布の本・遊具は全部撤去）で再開したものの、更なる感染の広がりによる国の「緊急事態宣言」が四月七日に発され（五月六日まで）、再開わずか六日にして四月十四日から「休館」を余儀なくされてしまいました。

それが五月五日には、国の「緊急事態宣言」が一ヶ月程度という型で延長されることとなりました。今回は会議等せず延長を受け入れ、再開は追って知らせるという内容の通知（四回目）をしました。

以後五月下旬早々までに大部分の府県が解除になりましたが、北海道では（特に札幌圏）感染が治まらなかつたので、解除が一番遅い五月二十六日になってしまいました。それも北海道知事が五月末までの「自粛要請」の下でした。

三、再開

国の「緊急事態宣言」は解除されて、図書館も再開の対象になりましたが、当文庫は五月二十六日の運営会議で再開は代表理事が判断することになりました。

私立で小廻りのきくはずの当文庫ですが、再度来てくれるボランティアの方々が納得できる環境を整えねばならず準備や調整に時間を要し、六月十四日（日）から閲覧のみの再開で五回目の通知を出しました。

再開後はお陰様で順調に推移しておりますが、貸出を望む声が多く、札幌市立図書館に遅れること十日の七月五日から貸出再開に漕ぎ付けました。来館者もどりつつありますが、イベント開催はまだ手探り状態で、これが回復しないと、元の賑わいをもどすところまではとても行けません。

（高倉 記）

「新型コロナウイルス」蔓延と「ふきのとう文庫」活動

開館日	入館者数	入館ボランティア数 (制作ボランティア含む)
2月23日(日)	55人	13人
24日(月)	34人	8人
25日(火)	26人	13人
26日(水)	36人	13人
コロナ休館		
4月5日(日)	35人	12人
6日(月)	24人	6人
7日(火)	18人	8人
8日(水)	7人	6人
定時閉館日		
4月12日(日)	26人	6人
13日(月)	15人	10人
コロナ休館		
6月14日(日)	27人	5人
15日(月)	5人	11人
16日(火)	13人	22人
17日(水)	15人	8人
定時閉館日		
6月21日(日)	14人	7人
22日(月)	3人	8人
23日(火)	6人	18人
24日(水)	18人	7人
定時閉館日		
28日(日)	20人	7人
29日(月)	4人	11人
30日(火)	5人	20人
7月1日(水)	19人	7人
定時閉館日		
7月5日(日)	52人	8人
6日(月)	22人	4人
7日(火)	5人	26人
8日(水)	25人	9人

*制作ボランティアは休館中も適宜出向いて作業活動
*事務は金曜日活動（従来通り）
*7月5日から貸出再開



図書係・布の本。

拡大写本の活動状況

図書係

代表 田上 明子

三月一日からの図書館休館は思った以上に長く続いて、六月十四日からの再開でも閲覧のみとし、貸し出しはしていませんでした。貸し出しをしないうことで来館者は激減していましたが、ようやく七月五日から貸し出しもするようになり、徐々に以前のようになってきました。ただ、まだコロナの影響があるので、以下のような点に注意して開館しています。

〈体調について〉

咳、発熱、倦怠感などの症状が見られるなど少しでも体調不良が認められる場合は、来館をご遠慮してもらおう。

〈消毒等について〉

ご来館の際には、手指アルコール消毒か化粧室での手洗いにご協力お願いします。

ドアノブ、カウンター、椅子、テーブル等多くの方が手を触れられる箇所は除菌シートによる消毒を実施する。

〈本の貸出しについて〉

感染症対策のため、借りた本を入れるマイバッグをご持参してもらおう。

布の本グループ

代表 出村 厚子

三月に予定していた展示会を延期（結局中止）、

その後、布の本の貸し出しの中止、気がつけば五か月余りが過ぎました。

休館の間、子どもたちの元気な声が聞かれない館内は静まり、さびしさを感じました。布の本グループの館内での活動は自粛していました。各自が布の本や遊具の製作に必要な材料を持ち帰り、自宅での作業を続けてきました。材料セットの注文は例年に比べ、この時期としては多く、館内での作業ができる人が来て製作していました。

六月からは活動を再開しました。通常の活動をする人、短時間で帰る人、自粛を続ける人など各自の考えで無理なくできる範囲内の活動を行います。

今後の製作活動や布の本の貸し出しなどはコロナ禍の状況を踏まえて検討していきます。特に布の本や遊具は手に取り、ふれあつて楽しむもので、慎重に対応していかなければなりません。展示会などのイベントを含めて、すべてのふきのとう文庫の活動が再開できるように、一日も早く活気あるふきのとう文庫にもどれることを願っています。

拡大写本グループ

代表 山本 淳子

新型コロナウイルスの蔓延で、しかたなく私たちの活動もお休みすることになりました。北海道の二月末からの緊急事態宣言により三月から三ヶ月間の活動休止でした。支援校への拡大本の配本もこの期間は学校の休校・春休み、そして休校延長で、子どもたちとの交流も自粛しなければなりません。六月になって徐々に学校も始まり、私たちも中旬からやとボランティアの活動を

を始めることになりました。

普段一部屋に全員で八名の活動しているところを、三密を避けるために午前組、午後組に分れて、三、四人で作業することにしました。部屋の机の境にはウイルス防止のビニールを張りめぐらせました。マスクを外しての昼食もあり、出来るだけ安心して活動が出来るようにするためです。机に向かつて作業をしているとまるで水槽の中にいるような気分になります。

これから始まる活動の内容も少しずつ変化していくこともあると思いますが、子どもたちが置かれている立場を考えると私たちが出来ることをしていこうと思います。世界中に広がったコロナウイルスの感染を一日も早く終息させるために、一人一人の生活スタイルを十分に気をつけなければなりません。二階の活動室まで聞こえていた来館した子どもたちの元気な声を再び聞けることを願うばかりです。



書棚より

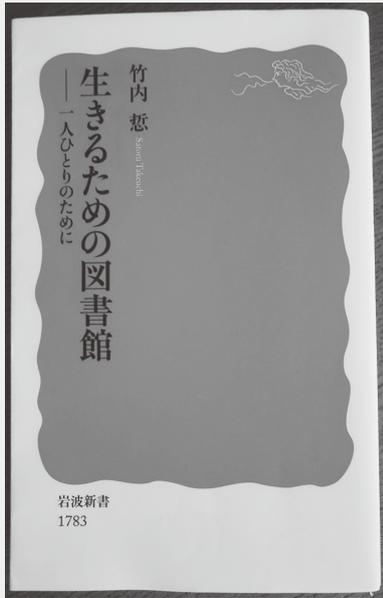
「生きるための図書館」

竹内 愼

三ヶ月以上の休館を経てようやくやくふきのとう図書館も再開された。この間に「一人ひとりのために」と副題された本書を再読した。一体図書館とはどんなところだと思おうのだろう、思われているのだろうかということ確かめたかった。

この本には、地域の図書館をたずねたときの模様を載せている部分や、新しい図書館像のこゝと、東日本大震災を経験した被災地の図書館の状況やそこから学んだことなど興味深い話が書かれていた。それらと並列して「子どもたちにも本を」という項目が五〇ページ以上のスペースを使い語られていた。

『ノンちゃん雲に乗る』の作家石井桃子が、戦時中から児童図書館を始められ、子どもの本に接し、欧米研修を経て自宅に「かつら文庫」



を作った話は、同じ岩波書店に勤務していた当ふきのとう文庫の前理事長小林静江の足跡ともオーバーラップしてくる。石井は「ごく小じかけであつても、子どもと本をひとつとつところにおいて、そこで起こる実際の結果を見てみたい」という気持ちから「かつら文庫」を始めたと言っていた。その経験と思索とをまとめたのが『子ども図書館』（岩波新書 一九六五）となり、一九六〇年代後半の親たちに随分刺激になったという。親たちは子どもと本との付き合いの楽しさ、明るさ、そしてそこに積極性を見いだし、戦争のため本どころではなかった自分たちの子ども時代と比べ、新しい時代の子どもたちを発見した。

ところが、いたるところに「子ども文庫」が出来てくると、あまりに熱心な親たちと石井の考えにズレが生じてきて、石井は自分の本の発刊を一時止めてしまった。「文庫に母親が肩入れしすぎて、熱心になりすぎている。それでは子どもがかわいそうだ。子どもの読書はもつと自由にしてほしい」とある研究集会で発言し、本を止めたという。

石井の目指したのは、すべての子どもたちに読書の喜びをとということであり、公共図書館での子ども図書館の充実、図書館職員の身分の確立、優れた児童図書を購入であった。それから半世紀が経っているが、現状はどうであろうかと考えてしまう。

「親子読書運動」という言葉は恥ずかしながら初めて聞いた。学校図書館活動を活発に進め

て、さらに生徒の家庭で親が読み聞かせをすることを提唱するものだったらしい。この「読書運動」という言葉に何かしらの胡散臭さを感じるのは当方の考え過ぎなのだろう。この言葉の意味するところは「本を読むって面白いなあとという喜びを、一人でも多くの子どもたちに経験してほしいという願いを持った市民活動」となっており、それであれば理解もする。しかし、この運動も一九八〇年代に入ると、子どもの減少や遊び場所と仲間が少なくなっていくことから、子どもたちの読書に対する意欲も衰えたかのようになり、徐々に変化していく。ゲーム機器の普及で読書に代わる物が子どもたちの興味の的となり、そのうえ塾通いや習い事の増加など子どもたちの環境にも変化が目立ち、様々な要因で子ども文庫も減少し運動自体も下火になった。

その後、子ども文庫は高学年から低学年、更には幼児へと移っていったらしい。ここまで読んできて、自分がいるふきのとう文庫の今と照らし併せると興味深いことがたくさん出てきた。図書館内部の人だけではなく、読者（この本の中では、図書館を訪れる人を、利用者では単に利用登録した人みたいな感じだが、読者とするので何かを求める積極性が感じられるから、そう呼びたいと書いてある）にも読んでもらいたい一冊である。

（図書係 野田）

—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキストNo	布の絵本	テキスト	材料セット	テキストNo	布の絵本	テキスト	材料セット	テキストNo	布の絵本	テキスト	材料セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
12	MY BOOK	200円	3320円		むし		2230円	遊具	やさいセット(8種)	なし	600円
	このいろなあに		3850円	17	ちいさいおおきい	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円	
13	のりもの	200円	1620円		さかな	1720円		どうぶつとなかよし	なし	1600円	
	だれのうち		3320円	わっ!	なし	1720円		おいしいね!	なし	1600円	
14	Greeting	200円	3030円	ドレミのうた	なし	5020円		おはな	なし	1600円	
	おやつ		1720円	新作 ばあ!	なし	2200円		のりたいな	なし	1600円	
15	おかあさん	200円	3030円	どんぐりころころ	なし	4360円		うみのともだち	なし	1600円	
	どうぶつ		1820円	おむすびころりん	なし	5560円		とりのなかま	なし	1600円	
								どうぶつだいすき	なし	1600円	
								とり	なし	1600円	



様々な支援を頂いて

前号でもふきのとう文庫運営の厳しさを報告しておりますが、多くの皆さまから寄附金や寄贈品を頂いて活動に役立てています。今回はその一端を紹介したいと思います。コアレックス道栄さまからは、常時トイレットペーパーの寄贈を頂き、経費節減に多大に貢献していただいています。今回、新型コロナウイルスのさなか、マスクを多数頂きました。来館者にはマスク着用をお願いしていますが、当方にも用意があることで、忘れてきた人などの対応に役立たせていただいています。

庭に可愛らしいクマの置物を頂きました。これはトピアリーと言って、常緑樹や低木を刈り込んで作成される西洋庭園における造形物の鳥や動物、立体的な幾何学模様にしたものなどの一種です。庭園技法としては、イギリスの庭園でよくみられるもので、今回、造園業をされている永田さまから寄付を頂いたのは、苔でできた熊のトピアリー。中庭に設置されて、本を探している子どもたちの方を向いています。再開した図書館の子どもたちは気がついてくれることでしょうか。

寄附金では四回目となる札幌南ロータリークラブさまがあります。社会支援活動をされているクラブではありますが、数多い支援すべき団体の中から当文庫の活動に賛同して何度も選んでいただいております。

コロナウイルス禍の今年ではありますが、これから社会生活も元に戻りつつあり、これからのふきのとう文庫の更なる活動に向けて、それぞれ役割を担ってまいりますので、よろしくお願い致します。

あとがき

三ヶ月以上の休館となった後の「文庫だより」は、載せるべき事も少なかったが、この時期だからこそという報告も必要だ。結果、どのページも新型コロナウイルスの話が出ることになった。飛散防止のビニールがついたカウンターの写真なども載せた。今は珍しくもないが、きつと十年後、二十年後は「へー、そんなこともあったのだ」と貴重なシーンとなっている。

十月からは、うたう会、おはなし会などは当初予定通り開催していくが、参加人数の限定や進め方なども検討していきたい、以前とは違うものになる可能性もある。今回のコロナ禍で、図書館のあり様も変わるのかもしれないが、状況に応じた工夫をしてみんなが楽しく利用できる場所としていこう。

編集 公益財団法人ふきのとう文庫
代表理事 高倉 嗣 昌
 〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西12丁目 8
 ☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800
<http://www.fukinotou.org>
 E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
 令和2年7月10日 発行
 毎月10日発行一部100円（維持会費を含む）
 昭和48年1月13日 第3種郵便物承認
 HSK通巻580号
 発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
 細川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。
 維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。